【第三種郵便物認可】 日本経済新聞 2012年(

合金鉄が軒並み反発

鋼材の副原料 生産国、減産進む

鋼材の副原料であるフェロクロムなど合金鉄の国内流通価格が反発した。フェロクロムは2年ぶり、フェロシリコンは1年半ぶりの上昇。世界の粗鋼生産の伸び悩みを背景に生産国で減産が進み、需給が引き締まった。

ステンレス原料に用いるフェロクロムは、指標となる南アフリカ産の国内需要家向け価格が1トン13万円。5月は前月比8%上がり、2010年4月以来の上げとなった。

電力料金が高騰した南アではフェロクロムの生産者が減産を進め、需給が締まった。日本商社が南アの資源会社と決めた4~6月積み対日輸出価格は、1ポンド143セント前後となり、前期(1~3月)比16%上がった。対日価格の上昇が国内価格に波及した。

国内では鉄鋼会社が昨年、鋼材需要の鈍化で合金鉄の仕入れを抑制。在庫水準が下がり、需要は上向いている。

鋼材生産で脱酸剤として使うフェロシリコンの国内需要家向け価格は現在、1トン当たり12万4千円。前月比1%高で、10年9月以来の上昇。主要生産国の中国でこれまで増産されてきたが、世界的に粗鋼生産の減速感が広がり、生産者が減産に転じた。

フェロシリコンの対日輸出価格は現在、1トン1425ドル。直近底値だった昨年12月比で1%上がっている。

アルミスクラップ品薄

流通業者、需要増でも苦悩

地金軟調で下げ圧力強く

アルミスクラップの流通業者(問屋)が収益悪化の懸念を強めている。東日本大震災後の生産停滞でスクラップの発生量が減少して調達コストが高止まりしている。一方、アルミ地金の国際相場が低迷しアルミ二次合金メーカー向けの販売価格は下げ圧力が強いためだ。自動車生産の回復などで需要が高まるなか、調達が難しくなり問屋にとって厳しい状況が続く。

「アルミスクラップをあるだけほしい」――。今年に入り関西の大手アルミスクラップ問屋、橋本アルミ(大阪市)には、スクラップを合金に再加工するアルミ二次合金メーカーから問い合わせが増えてきた。

スクラップの7~8割は自動車のエンジン部品などに使われ、自動車生産が本格回復するにつれてスクラップの引き合いは強まってきた。しかし少なく、メーカーの必要量に十分に応じることができていない」と話す。

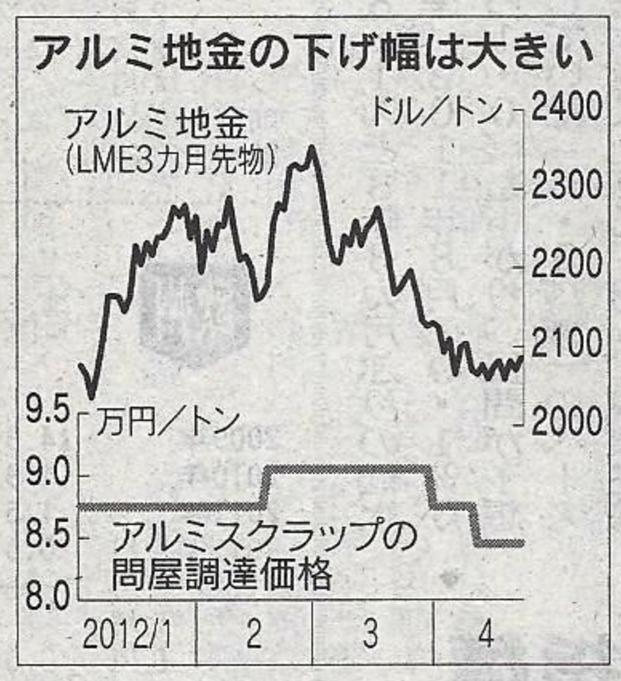
東日本大震災後のサプライチェーンの寸断で、自動車をはじめとする多くの製造業の生産活動が停滞した。部品などの生産工程で生じるアルミスクラップの発生量が減少し、昨年から慢性的な不足が続いている。関東地区のアルミスクラップ問屋の団体である軽金属同友会(東京・文京)がまとめた2011年のスクラップ取扱量は約14万9千トンと前年比約7%減った。

問屋のアルミスクラップ調達価格は、アルミ地金の国際相場に連動することが多い。だがロンドン金属取引所(LME)のアルミ地金の3カ月先物は、直近高値だった3月初旬から4月下旬までに12%強下落して1トン2070ドルとなる一方、調達価格(新切れ)は同期間に7%の下落にとどまり、現在1トン8万5千円前後だ。

ただ買い手のアルミ二次合金メーカーは、LME相場の下落を受けて値下げ圧力を強めている。二次合金の販売価格は、地金の国際相場を反映して決めるものも多いためだ。二次合金メーカーのスクラップの買値(新切れ)は現在1キロ150~155円程度。スクラップの採算ラインの160円を割り込む。

大紀アルミニウム工業所や日軽エムシーアルミ(東京・千代田)などの二次合金大手は、東南アジアや中国などにも工場を持ち柔軟に生産調整できる。問屋は「なかなか強気の価格交渉ができない」(関東のアルミスクラップ問屋)という。

アルミスクラップには鉄スクラップなど異業種の参入も多く、問屋間の調達競争は厳しい状況が続きそう。調達コストが販価に反映できない状況が長引けば、既存のスクラップ問屋の淘汰にもつながる可能性がある。



薄鋼板在庫が減少

3月末

鋼材の主力である薄鋼板の国内在庫が3カ月連続で減少した。主要3品種(熱延、冷延、表面処理)の3月末のメーカー・流通在庫は411万トンと前月末比4万トン(1%)減った。需要面ではエコカー補助金を追い風にした自動車向けが堅調。建築分野も東日本大震災の復興需要が上向いているという。

品種別では熱延が前月末比ほぼ横ばいの210万トン、冷延が同5%減の78万トン、表面処理は123万トンで微減だった。

在庫量を出荷量で割った在庫率は2・23カ月分で、昨年3月末とほぼ同水準にまで減った。鉄鋼会社側は適正とされる2カ月分を目指し「需要を見極めて生産過剰にならないようにしたい」(新日本製鉄)としている。

普通鋼鋼材3月 生産量5%増

日本鉄鋼連盟は7日、3月の普通鋼鋼材の生産量が667万トンだったと発表した。前年同月比5%増で、前年実績を13カ月ぶりに上回った。前月比では12%増だった。3月末の在庫量は641万トンで、前月比1割高い1万トンに達したこと自動車に供給側の価格決定力が今後強まるとの観測が流通業支援で供給者が集約され供給過剰感がさらに薄れていない。

マンスリー
(4週に1回金曜日掲載)
特殊鋼

新橋～虎ノ門～汐留 7―35
西新宿周辺 6―28
芝浦～港南 6―30
▽大阪
御堂筋周辺 5―25
TFTパソコンモニター用
17型 53―58
TFTパソコンモニター用
19型 57―62
TFTノートパソコン用
15型 41―46